

農村検診センターに於ける 検診総括結果報告とその検討

厚生連滑川病院 一柳 兵藏
松井 規子

緒 言

農村検診センターにおいて昭和54年7月開設以来昭和55年12月末に到る検診結果を総括し若干の検討を行った。

1. 検診地域の人員と年齢・性別

受診人員総数3,125名、男1,438名、女1,687名、対象地域は富山県全域にわたり、呉東地区22単位農協、呉西地区17単位農協、県連関係団体5単位である。

呉東地区受診人員 2,021名(男 858名、女 1,163名)、呉西地区受診人員 1,002名(男495名、女507名)、県連関係 102名(男85名、女17名)、性別では男女およそ同率であったが、女が僅かに多い。受診者の年齢別では40才代1,125名(36%) 50才代1,100名(35.2%)で全体の71%を占め、30才代、60才代はおよそ同率の13%前後であった。

2. 総合判定区分

総人員3,125名中異常なし648名(20.7%) 要注意891名(28.5%) 要精密895名(28.2%) 要医療 691名(22.1%)であった。ただしこれは開設以来1年半の期間に於ける総括結果である。(第1表)

3. 判定内容の分析(第2表)

1) 要注意者の分析

疾患系統別に検討すると循環器系26.6%で最も頻度が高く、次に消化器系25.6%、脂質代謝系肥満13.2%、高脂血症12.6%であった。従って循環系、消化系、脂質代謝系が要注意者では大部分の78%を占めている。

更に循環器系では高血圧、心肥大が主なるものであった。高血圧250例(男8.9%、女7.1%)、心肥大 198例(男3.8%、女8.4%)で、高血圧は男にやや多く、心肥大は女に多い。両者は併発の頻度が高い。最近の西欧風食生

第1表 地区別受診状況及び判定区分

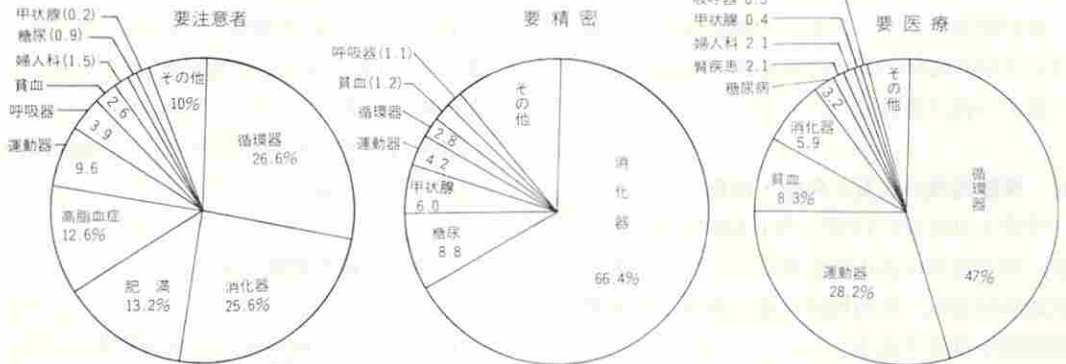
地区	受診者数	性別		コース			異常なし	要注意	要治療	要精査
		男	女	A	B	C				
新川地区	1,330	584	746	184	25	1,121	261	401	307	361
%							19.6	30.1	23.0	27.1
富山地区	691	274	417	13	44	634	156	202	138	195
%							22.5	29.2	19.9	28.2
高岡、氷見、射水地区	511	259	252	33	130	348	112	141	112	146
%							21.9	27.5	21.9	28.5
砺波地区	491	236	255	32	1	458	102	118	120	151
%							20.7	24.0	24.4	30.7
県連、その他	102	85	17			102	17	29	14	42
%							16.6	28.4	13.7	41.1
総計	3,125	1,438	1,687	262	200	2,663	648	891	691	895
%		46	54	8.4	6.4	85.2	20.7	28.5	22.1	28.7

活の傾向に、相関を有すると考えられる。又、動脈硬化、冠不全、心筋障害、陳旧心筋梗塞の頻度が増加の傾向にみられることは健康管理指導上注目すべき点である。

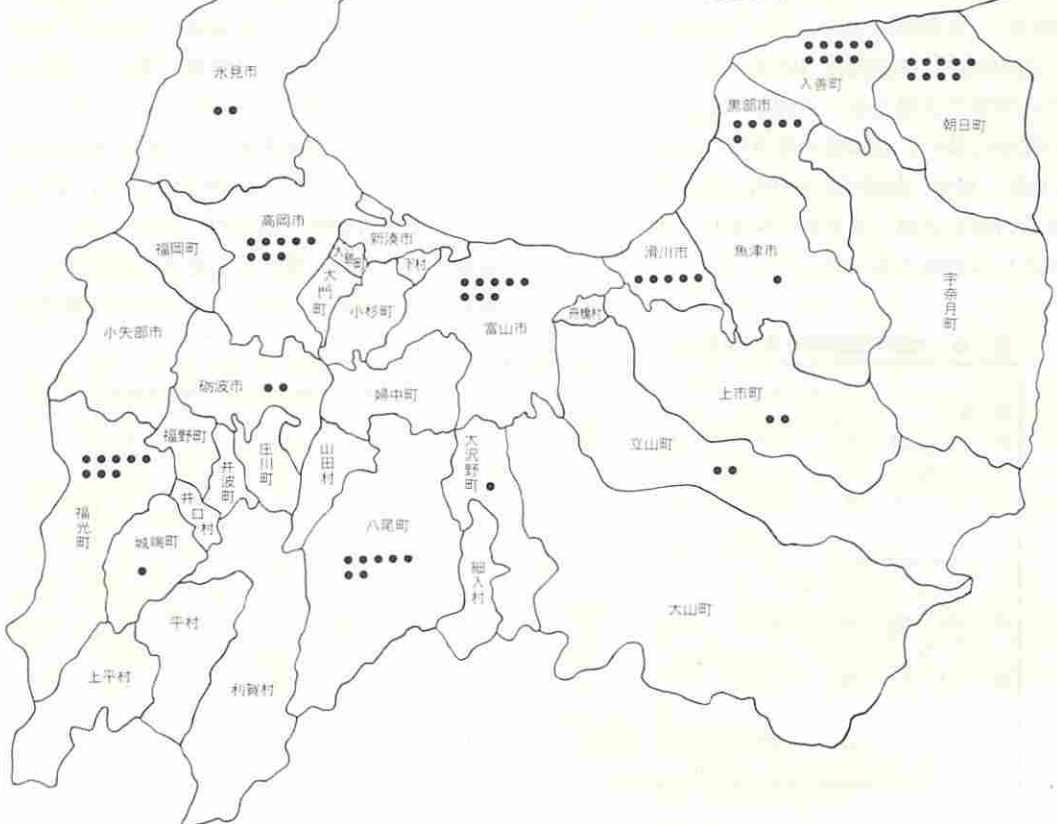
なお、期外収縮、房室ブロック等の頻度も稀ではない。消化器系で頻度高いのは肝疾患400例(男299例(20.7%)女101例(5.9%))が特筆される。内訳はビールス性肝障害、アルコール性肝障害が主なるものであった。

B型肝炎ウイルス抗原保有者71名(男35名女36名)で検診地域の平均発見率は2.2%(男2.4%,女2.1%)であった。富山県B型肝炎ウイルス保有者はおよそ2万人と推定され、ウイルス保有者のB型肝炎ウイルス性肝炎発病率は10%であるとみなされているが、本検診では発見率は9名(男4名,女5名)12.6%であった。

第2表 判定疾患分類別頻度



第3表 富山県内B型肝炎ウイルス発見地域



発見地区は別表（第3表）の如く全域に散発的に認められた。防疫方法は現在まだ未完成であるが、将来ワクチン療法の完成が期待される。創傷感染母子感染に留意すべきである。（第4表）

我が国のアルコール消費量は年々増加の一途を辿り、年間1人当たり、アルコール平均消費量は6リットル（酒換算2斗4升）でアメリカに匹敵するまでになっている。

肝炎、肝障害、脂肪肝は男264例（18.3%）女68例（4%）であったが、B型肝炎ウイルス保有率は男女略同率より考えて、肝疾患発生頻度の著明格差はアルコールに因する事が濃厚である。γGTP異常値は飲酒と濃厚な関連性があり、男には特異な高率を示し、アルコール癖のない女では極めて低率である。

脂質代謝に於て肥満363例13.2%（男5.6%、女16.7%）女に高率で遺伝、生活環境、食生活、内分泌異常等の原因が考えられるが、その95%が過食による単純性肥満症と考えられる。高血圧、動脈硬化、心疾患、糖尿病等の誘因として留意の必要がある。特に戦後の食生活の変化により増加の傾向が認められる。

高脂血症 346例12.6%（男11.9%、女10.3%）、脳血管障害、虚血性心疾患の病因として戦後の西欧化食生活と共に増加の傾向を認める。特に心疾患の増加傾向に密接な関連性が考えられる。発生頻度に男女差はあまりない。

貧血72例（2.6%）（男0.6%、女3.7%）女に6倍の頻度で高率にみられた。主として栄養欠陥と過重労働が考えられる。（第5表）

2) 要精密者の検討

疾患系統別に消化器系統894例（66.4%）が主なもので次に糖代謝で糖尿病、糖尿、血糖高値119例（8.8%）であった。

胃炎疑 543例（17.3%）（男24.5%、女11.2%）、胃潰瘍疑129例（4.1%）（男5.8%、女2.6%）、十二指腸潰瘍疑61例（1.9%）（男3.1%、女1.2%）、胃ポリープ疑57例（1.8%）（男1.4%、女2.1%）、何れも潰瘍及び悪性変化を鑑別す

第4表 B型肝炎ウイルス保有状況

要治療	B型肝炎ウイルス肝炎	農協名			計		
		男	女				
要注	B型肝炎ウイルス保有者	朝日町中央農協		1	1		
		大家庄農協	1	1	2		
		八尾町農協		1	1		
		高岡市農協	1		1		
		福光町中央農協	1	1	2		
		計	3	4	7		
		要注	B型肝炎ウイルス保有者	富山市中央農協	1		1
				福光町中央農協		1	1
				朝日町中央農協	1	4	5
				大家庄農協	1		1
				入善町農協	2	6	8
				入善酪農組合		1	1
				黒部農協	3	1	4
				黒部市信用農協	2		2
				道下信用農協		1	1
立山町農協	1			1	2		
上市町農協				2	2		
滑川市農協	2			3	5		
大沢野町農協				1	1		
富山市中央農協	3			1	4		
八尾町農協	2			4	6		
高岡市農協	3		3				
高岡酪農組合	1		1				
戸出町農協	3		3				
水見市農協	1	1	2				
砺波市農協		2	2				
南砺農協	1		1				
福光町中央農協	2	3	5				
富山県経済連	1		1				
富山県共済連	2		2				
計	32	32	64				

るため胃カメラ組織検査を必要としたもので、呉東地区で3例、呉西地区2例（56.1月末集計）、悪性腫瘍を発見し手術により救命する事が出来た。婦人科細胞診にて1例悪性変化を認め同様救命し得た。（第6表）

第5表 要注意者疾患分類頻度

疾患分類	頻度	例数	性別		百分率
			男	女	
循環器疾患		728	321	407	26.6
消化器疾患		702	482	220	25.6
呼吸器疾患		107	82	25	3.9
運動器疾患		263	102	161	9.6
内分泌疾患		7	0	7	0.2
血液疾患		72	9	63	2.6
野臓疾患		46	26	20	1.6
新陳代謝疾患、糖尿病		27	10	17	0.9
肥満		363	81	282	13.2
高脂血症		346	171	175	12.6
婦人科疾患		41	0	41	1.5
その他		30	13	17	1.0
合計		2,732	1,297	1,435	

3) 要医療者の分析

疾患系統別では循環器系557(47%),運動器系334例(28.2%)が主なるもので、次に貧血99例(8.3%),消化器系70例(5.9%)等であった。高血圧329例(10.5%)(男12.4%,女8.8%),治療を要するもので心肥大、心電図変化、眼底変化、尿蛋白を合併するものがみられた。

心電図では狭心症疑冠不全等の所見を認めた。運動器系では変形性腰椎症、腰椎々間板障害、骨粗鬆症、腰椎迂り症、腰椎分離症が主なるものであった。肝疾患、肝炎36例1.2%(男2.1%,女0.2%)で女に比し男は約10倍の頻度でみられ、ビールス性の他にアルコール性が多分に病因と推定される。その他B型ビールス性肝炎7例0.22%(男3例,女4例)アルコール性肝炎アルコール性肝障害いずれも男であった。

糖尿病37例(1.18%)男1.8%,女0.6%が治療を要した。貧血99例(3.17%)(男0.7%,女5.2%)が要医療のものであった。

婦人科では子宮筋腫、子宮頸管ポリープ等が治療すべきものであった。(第7表)

4) 第2次精検結果(第8表)

(55.7~55.12末集計)

第2次要精検者数 518名中受診回答ありしもの303例(58.4%)であった。

その中主要なるものは第2次胃精検者 227例中胃潰瘍15例、十二指腸潰瘍11例、粘膜下

腫瘍3例、胃癌2例、胆石症疑7例、中胆石2例、血糖高値13例中糖尿病5、経過観察4例、甲状腺腫18例中単純性甲状腺腫5、慢性甲状腺腫4、慢性甲状腺炎3例、尿潜血陽性12例中尿道カルンクルス1例、腎出血1例、尿道ポリープ1例、下腹部腫瘍1例は複合卵巣腫瘍であった。

第6表 要精密者疾患分類別頻度

疾患分類	頻度	例数		百分率
		男	女	
循環器疾患	39	17	22	2.8
消化器疾患	899	559	340	66.5
呼吸器疾患	16	9	7	1.1
運動器疾患	57	18	39	4.2
内分泌疾患	81	3	78	6.0
血液疾患	26	12	14	1.9
新陳代謝疾患糖尿病	119	59	60	8.8
その他	114	49	65	8.4
合計	1,351	726	625	

第7表 要医療者疾患分類別頻度

疾患分類	頻度	例数		百分率
		男	女	
循環器疾患	557	282	275	47.0
消化器疾患	71	48	23	5.9
呼吸器疾患	4	3	1	0.3
運動器疾患	334	150	184	28.2
血液疾患	99	11	88	8.3
内分泌疾患	5	0	5	0.4
腎臓疾患	26	21	5	2.1
新陳代謝疾患糖尿病	38	27	11	3.2
高脂血症	2	1	1	0.1
婦人科疾患	26	0	26	2.1
その他	21	5	16	1.7
合計	1,183	548	635	

第8表 第2次精検結果(55.7~55.12末集計)

精検項目	要精検者数	受診者数	%	第2次精検結果
胃精検	318	227	71.4	異常なし 56 十二指腸潰瘍・癒痕 2 胃炎 123 胃潰瘍 15 胃びらん 2 十二指腸潰瘍 11 粘膜下腫瘍 3 胃潰瘍癒痕 1 胃癌 2 胃ポリープ 12
胆石症疑	7	7	100	異常なし 4 胆石症 2 経過観察 1
血糖高値	41	13	31.7	異常なし 4 糖尿病 5 経過観察 4
甲状腺腫	32	18	56.2	異常なし 5 単純性甲状腺腫 5 慢性甲状腺腫 4 慢性甲状腺炎 3 甲状腺腫 1
尿潜血陽性	38	12	31.6	異常なし 5 経過観察 4 尿道カルンクルス 1 腎出血 1 尿道ポリープ 1
乳腺腫	3	2	66.7	異常なし 2
下腹部腫瘍	2	1	50.0	複合卵巣腫瘍 1